

Eucharist

ユーカリスト

知っておきたいキリスト教のことば (116)

聖餐 せいさん

教会の礼拝では、「聖餐式」を大切にしています。これはイエス様が最後の晩餐のときに制定されたもので、「主の晩餐」(マタイ 26:26~30、マルコ 14:22~26、ルカ 22:15~20)として福音書に書かれている他、パウロの手紙でも触れられています。(コリントー 11:23~26)。

聖公会や多くのプロテスタント教会では、洗礼と聖餐を聖奠(サクラメント)と定めています。教会問答 14には「救いに必要な聖奠とは何ですか」という質問がありますが、その答えとしてこのように書かれています。

目に見えない霊の恵みの、目に見えるしるしまだ保証であり、その恵みを受ける方法として定められています。(祈祷書 262 頁)

イエス様は 2000 年前、逮捕される直前に弟子たちと食卓を囲みました。そのときにイエス様はパンを裂き、杯をまわしました。パンはご自分の体として、杯はご自分の血として与え、さらに「わたしの記念としてこのように行いなさい」と命じられます。

使徒言行録には「家ではパンを裂き」(2:46)という表現が出てきますが、この言葉が「聖餐」を意味し、普通の食事とは区別されていたものと考えられています。

教会は 2000 年の間、「聖餐」をおこなってきました。それはイエス様がわたしたちのためにいけにえとなってくださったことを記念し、パンと杯という目に見えるものを使うことによって、目には見えない霊の恵みが与えられていることをそのたびに想起するためです。

「あなたのために与えられたキリストの体。あなたのために流されたキリストの血」。この言葉を心に噛みしめながら、共に食卓を囲みましょう。

次回は「聖書」です。お楽しみに。



「最後の晩餐」

ティントレット

(1518 - 1594 年)

それから、イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えて、それを裂き、使徒たちに与えて言われた。「これは、あなたがたのために与えられるわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい。」

(ルカによる福音書 22 章 19 節)

